

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年10月3日(2013.10.3)

【公表番号】特表2013-503881(P2013-503881A)

【公表日】平成25年2月4日(2013.2.4)

【年通号数】公開・登録公報2013-006

【出願番号】特願2012-528004(P2012-528004)

【国際特許分類】

A 61 K 31/445 (2006.01)

A 61 P 31/14 (2006.01)

A 61 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 61 K 31/445

A 61 P 31/14

A 61 P 43/00 105

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月15日(2013.8.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

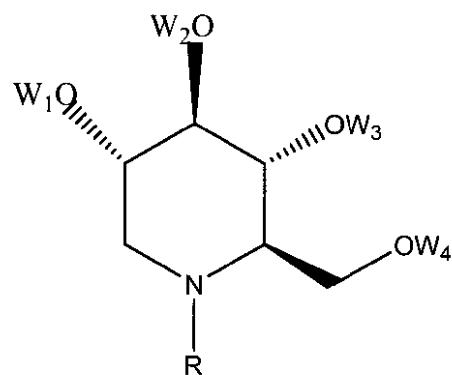
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

フィロウイルス科に属するウイルスに起因または関連する疾患または状態を治療または
予防するための医薬組成物であって、前記組成物は、式

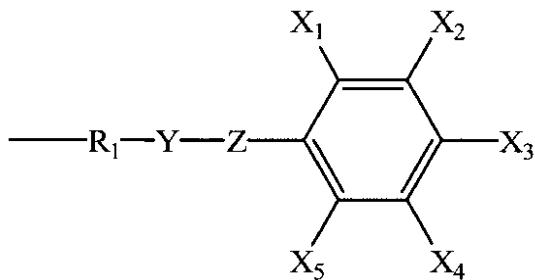
【化1】



の化合物、または薬学的に許容可能なその塩

[式中、Rは置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換シクロアルキル基、置換もしくは非置換アリール基、または置換もしくは非置換オキサアルキル基から選択され；または式中、Rは

【化2】



であり、

R₁は置換または非置換アルキル基であり；

X₁～₅はH、NO₂、N₃、またはNH₂から独立に選択され；

Yは存在しない、またはカルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基であり；

Zは結合またはNHから選択され（ただし、Zが結合である場合、Yは存在せず、ZがNHである場合、Yは、カルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基である）；

式中、W₁～₄は、水素、置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換ハロアルキル基、置換もしくは非置換アルカノイル基、置換もしくは非置換アロイル基、または置換もしくは非置換ハロアルカノイル基から独立に選択される]を含む医薬組成物。

【請求項2】

W₁、W₂、W₃およびW₄の各々が水素である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項3】

Rが、置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換シクロアルキル基、置換もしくは非置換アリール基、または置換もしくは非置換オキサアルキル基から選択される、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項4】

RがC₂～C₁₂アルキル基である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項5】

前記化合物が、B-ブチルデオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項6】

前記化合物が、B-ノニルデオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項7】

Rがオキサアルキル基である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項8】

Rが1から3個の酸素原子を含有するC₂～C₁₆オキサアルキル基である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項9】

Rが1から2個の酸素原子を含有するC₆～C₁₂オキサアルキル基である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項10】

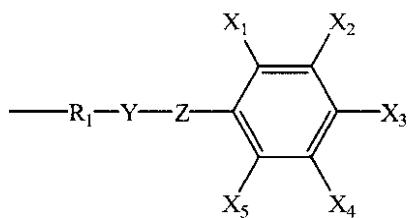
前記化合物が、N-(7-オキサデシル)デオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項11】

前記化合物が、N-(9-メトキシノニル)デオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩である、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項12】

R が
【化 3】



である、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 3】

X₁ が NO₂ であり、X₃ が N₃ である、請求項 1 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 4】

X₂、X₄ および X₅ の各々が水素である、請求項 1 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 5】

前記化合物が、N - (N - {4' - アジド - 2' - ニトロフェニル} - 6 - アミノヘキシル) デオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩である、請求項 1 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 6】

ウイルスがマールブルグウイルスである、請求項 1 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 7】

ウイルスがエボラウイルス科に属する、請求項 1 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 8】

ウイルスがザイールウイルスである、請求項 1 7 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 9】

前記組成物は哺乳動物に対して使用される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 2 0】

前記組成物はヒトに対して使用される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 2 1】

ウイルスがエボラウイルス科に属する、請求項 1 に記載の医薬組成物。

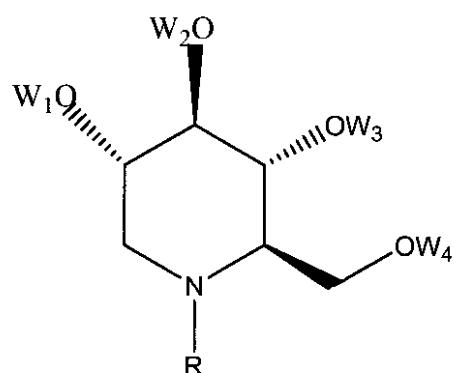
【請求項 2 2】

ウイルスがザイールウイルスである、請求項 2 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 2 3】

フィロウイルス科に属するウイルスに感染した細胞の感染性を阻害する方法であって、
フィロウイルス科に属するウイルスに感染した細胞を、有効量の式

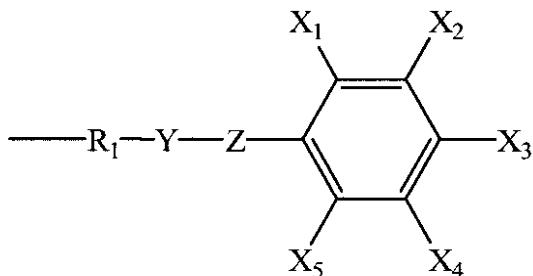
【化 4】



の化合物、または薬学的に許容可能なその塩

[式中、Rは置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換シクロアルキル基、置換もしくは非置換アリール基、または置換もしくは非置換オキサアルキル基から選択され；または式中、Rは

【化5】



であり、

R₁は置換または非置換アルキル基であり；

X₁～₅はH、NO₂、N₃、またはNH₂から独立に選択され；

Yは存在しない、またはカルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基であり；

Zは、結合またはNHから選択され（ただし、Zが結合である場合、Yは存在せず、ZがNHである場合、Yはカルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基である）；式中、W₁～₄は、水素、置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換ハロアルキル基、置換もしくは非置換アルカノイル基、置換もしくは非置換アロイル基、または置換もしくは非置換ハロアルカノイル基から独立に選択される]

に接触させることを含み、

前記接触が細胞の感染性を低下させる方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0084

【補正方法】変更

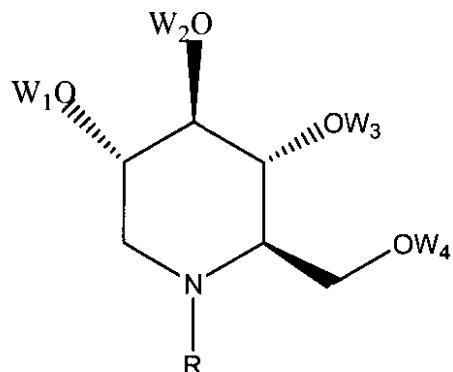
【補正の内容】

【0084】

本明細書に引用された出版物、特許出願および特許の全ては、その全体が参照により本明細書に組み込まれる。以下に、本願の当初の特許請求の範囲に記載された発明を付記する。

[1] フィロウイルス科に属するウイルスに起因または関連する疾患または状態の治療または予防方法であって、これを必要としている対象に、有効量の式

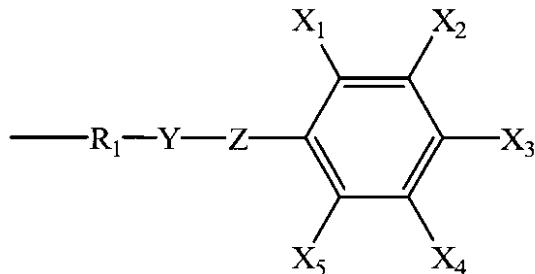
【化7】



の化合物、または薬学的に許容可能なその塩

[式中、Rは置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換シクロアルキル基、置換もしくは非置換アリール基、または置換もしくは非置換オキサアルキル基から選択され；または式中、Rは

【化8】



であり、

R₁は置換または非置換アルキル基であり；X₁～₅はH、NO₂、N₃、またはNH₂から独立に選択され；Yは存在しない、またはカルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基であり；Zは結合またはNHから選択され（ただし、Zが結合である場合、Yは存在せず、ZがNHである場合、Yは、カルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基である）；

式中、W₁～₄は、水素、置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換ハロアルキル基、置換もしくは非置換アルカノイル基、置換もしくは非置換アロイル基、または置換もしくは非置換ハロアルカノイル基から独立に選択される]を投与することを含む方法。

[2] W₁、W₂、W₃およびW₄の各々が水素である、[1]に記載の方法。

[3] Rが、置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換シクロアルキル基、置換もしくは非置換アリール基、または置換もしくは非置換オキサアルキル基から選択される、[1]に記載の方法。

[4] RがC₂～C₁₂アルキル基である、[1]に記載の方法。

[5] 前記投与が、B-ブチルデオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩を投与することを含む、[1]に記載の方法。

[6] 前記投与が、B-ノニルデオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩を投与することを含む、[1]に記載の方法。

[7] Rがオキサアルキル基である、[1]に記載の方法。

[8] Rが1から3個の酸素原子を含有するC₂～C₁₆オキサアルキル基である、[1]に記載の方法。

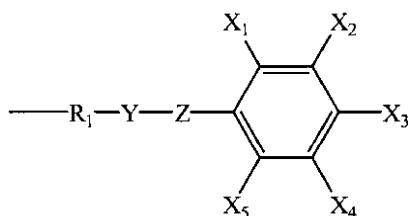
[9] R が 1 から 2 個の酸素原子を含有する C 6 ~ C 1 2 オキサアルキル基である、[1] に記載の方法。

[10] 前記投与が、N - (7 - オキサデシル) デオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩を投与することを含む、[1] に記載の方法。

[11] 前記投与が、N - (9 - メトキシノニル) デオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩を投与することを含む、[1] に記載の方法。

[12] R が

【化 9 】



である、[1] に記載の方法。

[13] X₁ が NO₂ であり、X₃ が N₃ である、[12] に記載の方法。

[14] X₂、X₄ および X₅ の各々が水素である、[12] に記載の方法。

[15] 前記投与が、N - (N - { 4 ' - アジド - 2 ' - ニトロフェニル } - 6 - アミノヘキシリル) デオキシノジリマイシンまたは薬学的に許容可能なその塩を投与することを含む、[12] に記載の方法。

[16] ウィルスがマールブルグウィルスである、[12] に記載の方法。

[17] ウィルスがエボラウィルス科に属する、[12] に記載の方法。

[18] ウィルスがザイールウィルスである、[17] に記載の方法。

[19] 対象が哺乳動物である、[1] に記載の方法。

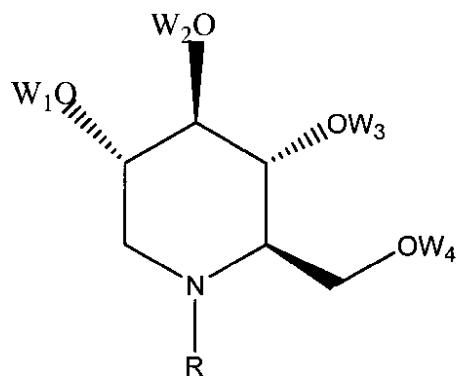
[20] 対象がヒトである、[1] に記載の方法。

[21] ウィルスがエボラウィルス科に属する、[1] に記載の方法。

[22] ウィルスがザイールウィルスである、[21] に記載の方法。

[23] フィロウィルス科に属するウィルスに感染した細胞の感染性を阻害する方法であって、フィロウィルス科に属するウィルスに感染した細胞を、有効量の式

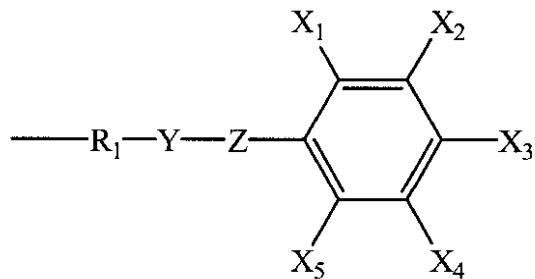
【化 10 】



の化合物、または薬学的に許容可能なその塩

[式中、R は置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換シクロアルキル基、置換もしくは非置換アリール基、または置換もしくは非置換オキサアルキル基から選択され；または式中、R は

【化11】

であり、R₁は置換または非置換アルキル基であり；X₁～₅はH、NO₂、N₃、またはNH₂から独立に選択され；Yは存在しない、またはカルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基であり；Zは、結合またはNHから選択され（ただし、Zが結合である場合、Yは存在せず、ZがNHである場合、Yはカルボニル以外の置換もしくは非置換C₁アルキル基である）；式中、W₁～₄は、水素、置換もしくは非置換アルキル基、置換もしくは非置換ハロアルキル基、置換もしくは非置換アルカノイル基、置換もしくは非置換アロイル基、または置換もしくは非置換ハロアルカノイル基から独立に選択される】に接触させることを含み、前記接触が細胞の感染性を低下させる方法。